

城南の風

編集・発行

城南地区まちづくり協議会総務部

〒669-2461

丹波篠山市小枕131

コミュニティセンター城南会館内



地域の文化財を守ろう

～文化財保護デーに伴う消火訓練を城南地区で実施～

1月14日(日)に城南地区内の神社で消防署と消防団による消防訓練がありました。消防署では、毎年、1月26日の「文化財防火デー」を前に、文化財を火災や災害から守る運動として、地元の消防団とともに市内の神社等で消火訓練を実施しています。今年も、丹波篠山市指定有形文化財が収蔵されている小枕の春日神社で行われました。

川の水が凍るほどの厳しい寒さの中、自治会や神社の役員等による初期消火訓練や、地元消防団員による消火訓練が行われました。訓練用の水消火器を使用した初期消火訓練の参加者からは、「家に消火器があるけど、実際に使うたことないなあ。こんな訓練は、もっとやらないかんなあ」という声が聞こえてきました。また、「ほんまに神社が火事になったら大変や。あんまり考えたことなかったけど、ふだんからどうするか考えとかなあかんなあ」という会話も交わされていました。

訓練では、器具の不具合など想定していない出来事も起こりましたが、消防団の方々は、慌てることなくてきばきと冷静に動いて対処されていました。そして、訓練が終わった後には、消防車をみんなで囲んで不具合の部分だけでなく車両すべての点検を丁寧にされていました。課題に対してすぐに対処されていました。地域の安全・安心を支えている団員の皆様の存在を改めて心強く誇りに思いました。



起こりうる災害を事前に把握しておく ～安心して過ごせる地域づくりのために～

「安全で安心して過ごせる地域づくり」をテーマとした市の自治会長会研修会が令和5年12月17日(日)にありました。

近年、急速な地球の温暖化が進み、それに伴う気候変動や災害が各地で起こっています。それらに対して、私たちが知っておくべきことやその対応などについて、丹波篠山市の取組と神戸地方気象台地域防災官の弘田実氏のお話を聞きました。

弘田さんは、昨年7月3日に起こった丹波市や丹波篠山市の豪雨も例にあげながら、『気候変動に伴い、雨の降る日は減っていますが、大雨や短時間での強い雨などは増えています』と話されました。

また、雨の降り方や、降る場所によってもたらされる被害が違うので、『自分の住んでいる地域で起こりうる災害(土砂災害、浸水災害、洪水災害など)を事前に把握しておくことが大切です』とも言われました。

そして、『大雨が降っている時には、気象庁の防災気象情報を活用してください。特に、この雨大丈夫かなと思ったときには、気象庁ホームページにある[キキクル]を見てください。[キキクル]とは、大雨による発生の危険度の高まりを地図上で確認できる情報です』と教えていただきました。

私たちがこのような気象災害から身を守るためには、まず、『住んでいるところの災害リスクを知り、災害の知識や防災情報、取るべき行動などについて確認し、家族で話し合っておくことが大事です』そして、災害に直面した時には、『手に入る情報をフルに活用し、その時に一番良いと思われる安全確保の行動をとり、命を守るために最善を尽くしてください。これまでの経験に基づいた防災や備えだけでは通用しなくなってきています』と言われました。

災害はいつ起こるかわかりません。自分の住んでいる地域のリスクについて把握し、今できる対応策をとっておくことが、大切な人の命を守ることにつながるということを再確認しました。

住んでおられる地域の防災情報については、「防災マップ・ハザードマップ」が、令和3年に市から各家庭に配付されています。今一度、ご家庭でご覧になってください。そのうえで、避難場所や避難行動をご家族で考えてみてはいかがでしょうか。

また、情報収集については、丹波篠山市LINE公式アカウントにより生活情報や防災情報を受け取ることができます。災害時には「災害時モード」に切り替わり「市内の避難所情報や河川・雨の状況、ハザードマップ、ライフライン」などの情報が受け取れます。(問い合わせは丹波篠山市ブランド戦略課まで 079-552-0275)

